

すけこの会

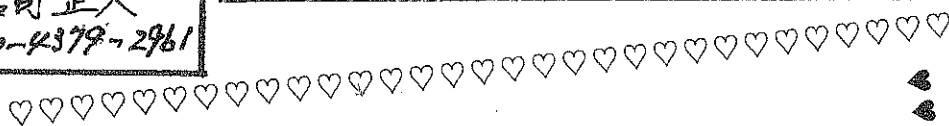
通信

No. 5

2012. 8. 15

笛吹すけこの会
<連絡先>

石和: 大竹 茂
TEL/FAX 055-263-2832
御坂: 神宮司 正人
090-4379-2961



届けましたヨ 笛吹の気持
協賛の花火 広野町の空に花開く

広野町復興祈念 花火大会 プログラム

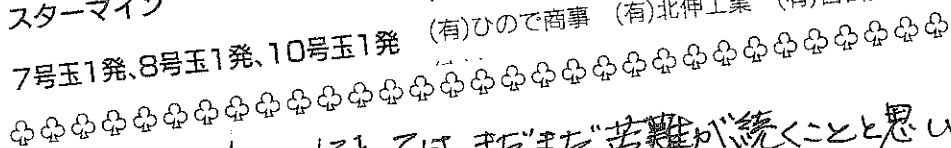
音楽創作花火◎ (7号10発入)

4号玉12発

4号玉12発

スターメイン

7号玉1発、8号玉1発、10号玉1発



- 広野町議会 広野町建設業組合
- 広野町役場課長等会 広野町立地企業連絡協議会
- 広野みかんクラブ
- 福浜大一建設(株)
- 南双サービス(株)南友会 矢部建設(株)
- (有)青田興業 (有)猪狩電設工業 (有)タカオ企画
- (有)ひので商事 (有)北伸工業 (有)吉田鉄工所

笛吹すけこの会

8月11日(土)盛大に開催

広野町(ヒロマチ)は福島第一原発から近く20km~30kmの圏内、緊急時避難準備区域とされ、約5500人の町民は町外に避難せざるを得ませんでした。笛吹市にも避難されてきている人がいます。

昨年9月に指定が解除されてはいますが、放射能除染はすすまず、町民のほとんどは戻れずいました。しかし2学期からは小・中学校も再開されるとのこと。広野町町民の皆さん

にとっては、まだまだ「苦難が続くこと」だと思いますが、花火大会などの祭を機により一層元気になってもらいたいと、微力ですが応援を続けていきたいと思っております。

そのため「広野町から花火大会への協賛の要請がありましたので、すけこの会としては協賛金の募集を行いました。短期間にもかかわらず、すけこの会の会員をはじめ社会福祉協議会の職員、皆さんに多大なご協力をいただきました。(ウラ面記載)

総額12万円、プログラムに掲載され、打上げ時には放送による紹介もありました。

広野町復興祈念花火大会のレポート

笛吹すけっこの会 会員 宮嶋聡明

先には「笛吹すけっこの会」の呼びかけによる、広野町復興祈念花火大会への協賛金のご協力ありがとうございました。現地での反響をつかみ、支援のあり方を探りたく、個人的に行って参りましたのでレポートします。

8月11日午後3時前、広野町の天候はあいにくで、今にも降り出しそうな空模様の会場のあちこちに「今どこさいるんだ」「まだ帰ってはこねえのか」「元気そうでよかった」といくつもの話しの輪が出来ていました。ステージが始まって10分もしない内についに降り出してしまい、演目の内いくつかは中止になってしまいましたが、ほとんどの人が傘をさしたり、東屋の下に集まったりして帰ろうとせず、話の花が咲いています。

春日居町の生原さんから預かった「ジャーマンアイリス」の球根を配っていると、「山梨の人だよ、去年四倉の仮設で物資をいただいたんだ、ありがたかったよ」と覚えていてくださっていた人や、「球根もう一袋もらえるかい、除染で庭が丸裸なんだ」と声をかけてくる人など、人とのかわりに飢えている様子が伝わってきました。会場周辺の住宅を見ると、庭の表土を何センチか削り取り、バラスをしいてありましたが、山や野原は手付かずの状態でした。

会場をうろついていると、気づいた町の関係者から「花火協賛のお礼を言いたいので本部テントにおいでください」と声をかけられ、町長さん、実行委員長さん、副町長さんたちにお会いして来ました。「今回の花火には、企業だけでなく、全国から個人、団体の協賛をいただいて盛大に実行できます。山梨県笛吹市の皆さんには、昨年から大変気にかけていただき本当にありがとうございます」と大変喜ばれました。

雨の中、花火は予定通り打ち上げられ、会場のアナウンスで一区切りごとに花火の提供者の紹介があり、「笛吹すけっこの会」も紹介されました。

住民の1～2割ぐらいしか帰れていない広野町で、この日花火に集まった人たちは、お互いに情報交換をしたり旧交を温めたり名残尽きない様子でしたが、花火が終わった8時10分過ぎには雨も上がったにもかかわらず、潮が引くように人がいなくなりました。となりのいわき市の仮設住宅からのシャトルバスと、ようやく復旧している常磐線の最終が迫っているため、これからの復興に向けた取り組みの前途多難さを想起させる体験でした。

今回協力していただいた皆さまの支援は、「名も知らない全国各地の人の中にも自分たちのことを気かけ、応援している人がいる。復興に向け困難ではあってもがんばろう」と思っていただけで一助になったに違いないと感じました。

※ 広野町ホームページから、ユウストリームで映像が見られます。